



平成25年5月31日

「チーム長小 ありがとうのあふれる学校」

例年より寒い日が続いた新学期の4月、5月でしたが、このところ夏を感じさせる気候となりました。晴れた日の運動場は、自ら進んでBトレに励む子やリレーの練習をしているグループ、教師も入ってドッジボールをする学級など、どの子も元気に活動しています。

さて、昨年度より一人一人の子どもや教師では達成できないことでも、長小の一人一人がそれぞれのよさを生かし合い、互いを認め合い支え合うことで、大きな力となっていく姿を目指して、「チーム長小」を合い言葉に取組を進めています。さらにその活動を通し、互いに認め合い尊重し合うことによってチームの力は強まり、大きな成果を収めるということを経験を通して学んでくれることを願っています。その中で、友達に「おかげさま」と感謝する心を育てていきたいと考えます。

保護者の皆様には、学校評価として7月と12月にアンケートを取り、取組の成果を評価していただき、その結果を基に、よりよい教育活動となるよう工夫に努めています。学習参観日など学校へお越しいただき、お子さんの学習の様子をご覧いただくと共に、学校を取組をご理解いただき、ご支援ご協力をお願いします。



豊かな心～「あいさつ運動の推進」



児童会のあいさつ委員会は、毎朝昇降口に立ってあいさつのプラカードを上げながら、おはようの呼びかけをしています。毎日交代しながら、自ら進んで立ち、あいさつを呼びかける姿には、長浜小学校の6年生として学校をあいさつで一杯にしていこうという意欲が満ちあふれています。

こうした取組の成果でしょうか、毎朝の登下校に立っていただいているスクールガードの方から、「毎朝、立ち番で登下校を見守らせてもらっていますが、今年の子どもたちは、とてもよくあいさつを返してくれます。進んで大きな声でおはようと言ってくれる子など、こちらもち番をしていて気持ちがいい。子どもたちから元気をもらっています。」という、とてもうれしい言葉をいただきました。

困ったことがありましたら、気軽にご相談ください

本校では、毎月15日に「教育相談日」を設け、ご家庭と協力して子どもたちの成長に関わっていただけると考えております。子どもたちの学習や生活についてお悩みごとがありましたら、ご相談ください。

TEL 62-0070 (窓口担当 三原 典子 養護教諭)

～いのちをつなぐビオトープ～

本校の学校ビオトープは、自然の少ない長浜小学校でも、子ども達ももっと身近に生き物とふれ合いながら、環境の大切さや命の尊さを学べるようにと、2004年より造成が始まり、翌年に完成しました。毎年PTA役員さんを中心に維持されてきたものの、管理が追いつかず、荒れた状態となってしまいました。

そこで、ホタルの住むビオトープを目指し、昨年度より再生作業が行われました。現在、学校運営協議会の理事でもある長浜バイオ大学の斎藤修先生の指導を受け、メダカを放流する準備を進めています。斎藤先生よりいただいた地元産のメダカを、5年生の子どもたちが教室の水槽で飼っています。理科の学習で観察をしながら、ビオトープへの放流を計画しています。今や少なくなってしまったメダカをビオトープで見守り育てていくことで、「命」の大切さを学び、さらに環境を守る意識を高めていきます。さらに、卵をかえし、増やしていく過程を通して、受け継がれていく命の営みを実感を伴い学んでくれることを願っています。

メダカが泳ぐビオトープ造りに向け、子ども達とPTAの方々などが協力して取り組んでいます。放流は6月初旬を予定しています。保護者や地域の皆さんも是非ビオトープをご覧ください、子ども達の活動を見守ってください。



ビオトープ再生の取組

5月18日にPTA本部、環境委員会の役員さんを中心に、学校ビオトープを再生する作業が行われました。昨年度は、繁殖しすぎた外来植物を刈り取り、ザリガニだらけで魚の住めなかった環境を整えてもらいました。今回は、ゴミを取り、崩れていた護岸の石を積み直し、雑草を刈り取っていただきました。この後、様子を見ながら環境が整った後に、5年生の子どもたちがメダカの放流活動を行います。

このビオトープで卵を産んで繁殖し、大切な命が受け継がれていく様子を子どもたちは、観察し、学んでいってほしいことを願っています。



卵からかえた様子に大喜び



5年生は理科の学習でメダカの観察を通して、生き物の成長について学んでいます。メダカを飼育する中から卵を産ませ、かえす学習を通して命の不

思議さや大切さについても学んでいきます。教室の水槽では多くの産卵が見られました。これを別の入れ物に取り出し、観察を続けています。顕微鏡をのぞき込み、卵の中でやがて目が出来、心臓が動き出す様子を見てびっくり。孵化して稚魚が生まれる瞬間は、「すごい！」と感動の声が上がりました。子どもたちは、生命の神秘さを感じていました。

校長室の水槽



今回たくさんメダカをいただきました。そこで、校長室にも水槽を置き、飼育を始めました。子ども達は、校長室に詩の暗唱やBト

レ記録カードを提出するために来ます。その時、水槽のメダカをしばらく眺めてから、退室する子もいます。小さな命の営みを眺めることで、心が癒されています。生き物を飼ったり、植物を育てたりする活動が心を育てることへ結びつくことを改めて実感します。ビオトープのメダカ飼育など、命の大切さに触れられる取組を進めていきたいと思っています。

- 「わぁ～、メダカが生まれてよかったなあ～。小さな命が大きな命になっていくので、名前をつけながら、みんなで大切に育てていきたいです。」
- 「メダカの卵が、心臓が動いていたので、ものすごく感動しました。また、生まれるところを見てみたら感動すると思います。」

5年生の日記より